

病害虫発生予察特殊報 第2号

害 虫 名 : タバコノミハムシ
学 名 : *Epitrix hirtipennis* (Melsheimer)
作 物 名 : 食用ほおずき

1 発生確認経過と国内での発生状況

令和2年(2020年)7月、東信地域の食用ほおずきの無農薬栽培ほ場において、ノミハムシ類(甲虫目ハムシ科ヒゲナガハムシ亜科)の成虫による葉の食害が確認された。成虫を採集し、農林水産省名古屋植物防疫所に同定を依頼したところ、これまで本県では未確認であった外来種のタバコノミハムシと同定された。

本種は、北米大陸起源とされる外来種で、国内では、平成23年(2011年)に群馬県で初めて発生が確認された(原田・滝沢2012)。以後2府12県で発生が確認され、特殊報等が発出されている。(令和2年8月3日現在)

2 形態

- (1) 成虫は、体長1.5~2.5mmで、体形は長楕円形でやや扁平。色彩はやや光沢のある赤褐色で、上翅には不明瞭な黒斑がある。時にこの黒斑は拡大し、背面がほぼ黒色となる個体もある。後腿節は顕著に肥大している(図1)。
- (2) 卵は地表に産みつけられ、孵化した幼虫は地中で根を加害した後、地表部近くで蛹化する。成虫は落葉下などで越冬する。

3 生態と被害

- (1) 本種はナス科植物を寄主とし、アメリカではたばこの重要害虫とされている。
- (2) 国内では、トマト、なす、ばれいしょ、ほおずきの他、雑草のワルナスビが寄主植物として報告されている。
- (3) 成虫は表皮を残して葉肉を食害したり、葉を貫通したりするため、直径1~2mm程度の多数の小さな白い点状または丸い穴状の食害痕が観察される(図2)。このような食害痕の特徴は、ナス科野菜の在来害虫であるナスナガスネトビハムシ(成虫は金属光沢のある濃藍色)に酷似し、食害痕のみでは両種の区別は出来ない。このため、発生種の確認は成虫で行う。

4 防除対策

- (1) 令和2年8月3日現在、本種に対する登録農薬はない。
- (2) 本種が発生している作物の栽培終了時には、近隣のナス科作物へ本種が移動しないように残渣を速やかに処分する。

5 その他

- (1) 他府県の特報によると、主としてナス科野菜の有機栽培や減農薬栽培のほ場で発生し、慣行の薬剤防除を行っているほ場において被害が拡大する可能性は低いと推測されており、トマト、なす、ばれいしょ等のナス科野菜を有機栽培や減農薬栽培する場合は本種の発生に充分注意する。

6 参考文献

原田晴康・滝沢春雄（2012）日本における侵入害虫タバコノミハムシの発生
日本応用昆虫学雑誌 第56巻 第3号：117-120



図1 タバコノミハムシ雄成虫
(大分県農林水産研究指導センター
農業研究部 病害虫対策チーム
提供)

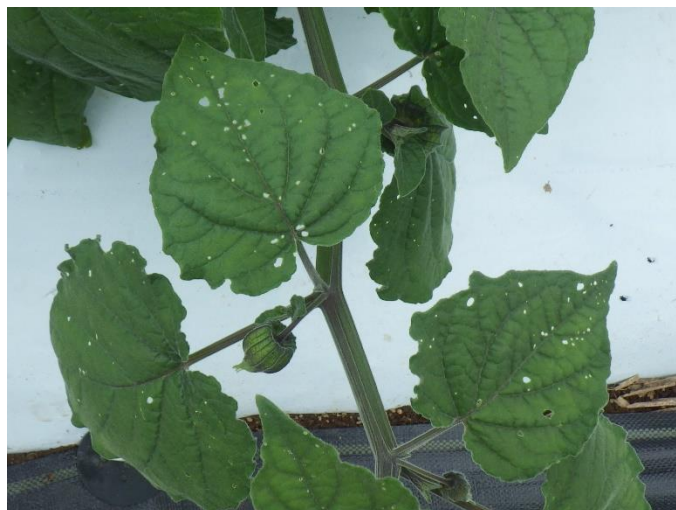


図2 タバコノミハムシ成虫による食害痕
(寄主植物は食用ほおずき)

連絡先 長野県病害虫防除所
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-6473
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp